

■建築・構造物一体型太陽光発電に関する国際標準化委員会（PVプロ）

概要

政府の「グリーン成長戦略」の14の重点分野には「洋上風力・太陽光・地熱」が挙げられており、2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、太陽光発電を可能なかぎり導入し、拡大させる方針が示されている。また、気候変動サミットにおいて二酸化炭素排出量を2030年に46%削減（2013年比）などを表明し、これまで以上に太陽光発電を含む再生可能エネルギーによる二酸化炭素排出量の削減が期待されている。

本事業では「グリーン成長戦略」の一環として、再生可能エネルギーの拡大に向けて、建築・構造物一体型太陽光発電（BIPV）の普及を促進するため、「融雪型太陽光発電システムの性能評価」「建築用太陽電池付きガラスの要求事項」「BIPVの日射熱取得率評価法」「融雪型太陽電池モジュールの安全性」の4つのテーマに関する国際規格を、IEC/TC 82またはISO/TC 160において策定し、国際標準化を推進する。

本プロジェクトは、2025年度から2年間のプロジェクトである。